

あきる台たいむす

Akirudai Times



さつき薬局

秋川店

0425-58-8416

(あきる台病院すぐ前)

介護用品・一般薬品・保険調剤

月・火・水・木・金 9:00~18:30

土 9:00~13:00

※日曜・祭日はお休みです

発行所



医療法人財団 暁

あきる台病院

〒197-0804

東京都あきる野市秋川6-5-1

TEL (042) 559-5761

FAX (042) 559-8054

2012年(平成24年) 10月 1日

第19号 5月10月合併号

発行人: あきる台病院(医療福祉相談室)



第二回 研究発表会 (院内学会) 開催される

「知識を深めてさらなる質の向上へ」

代表・セッションⅡ座長

院長 伊藤 正秀

第二回目的の医療法人財団研究発表会が、五月二十五日金曜日の午後5時30分〜7時30分まで開催されました。会場は、あきる台病院1階外来フロアの端から端までをフルに使い、外来フロアはイス・イス・イスでイスに埋め尽くされました。そして人・人の人の海となりました。一〇演題一〇人の発表者による熱い発表がありました。座長は三名が交代で担当し、それぞれ熱心な質問がありま

した。正面中央のスライド投影スクリーンが少し小型のため、後方の参加者には多少見づらかったかと思いましたが、次回ぜひともさらに大きなスクリーンを用意して下さい。熱気にあふれた約二時間の発表会はあっという間に終わり、もう来年の発表会が待ち遠しく思われます。私の担当(座長)した演題は、看護部2病棟・宮林千里さんとリハビリテーション部作業療法士・川俣晴佳さんの

二題です。

宮林さんは「2病棟における口腔ケア改善の取り組みについて」を講演しました。口腔ケアとは、口腔内清掃・歯石の除去・義歯の調整修理・手入れ等により口腔の疾病予防・機能回復・健康の保持増進さらにQOLの向上を目指した技術です。口腔内細菌培養検査によると、この当院の口腔ケアによりMRSAや緑膿菌といった細菌が口腔内から見事に駆逐されております。肺炎の予防にも絶大な効果が示されました。「食事と作業療法」

を講演しました。作業療法とは心や体に障害のある方、又はそれが予測される方に対し、作業活動を通して「その人らしい生活」の回復を行います。基本的な動作や応用的な動作が出来るように指導や援助をします。残された機能に適切な道具の考案や作成等も担います。障害が残った手の機能に対してスプーンの工夫・箸の使い方の工夫を通じて食物を自分で自分の口へ運べる様に出来てくる様子が報告されました。すばらしいことです。他の演題の紹介は各座長のサマリーに譲りますが、医局・健診部・NST・滝山のケアマネ・社会福祉部門からも演題が発表されました。接遇委員会からも発表がありました。滝山の小山さん達の活動も私たち暁グループへの大きな入場門として重要であり、大きく活動の規模を広げる必要があると思われました。

セッションⅠ座長

副院長 西木 俊一

伊藤院長「Helicobacter pyloriと胃粘膜の変化について」

Helicobacter pyloriが発見されたころ、院長は全く別の報告から胃潰瘍の研究(分類)をされていた。今回、新たな方向からの研究発表を聞くことができ、勉強になった。

あきる台グループホーム募集中

あきる台グループホームでは、お年寄りの方々と楽しく過ごしていただけるボランティアを募集しています。※詳しくは医療福祉相談室まで

セッションⅢ座長

「あきる台病院指定居宅 介護支援事業所」

管理者 大村 信幸

演題「医療・福祉サービスマンが難しい方の相談支援について」

在宅介護支援センターの役割、必要な支援策・継続見守り、相談できる地域づくり、相談受付状況の発表を受け、多種・多様な生活環境の中で、支援策を構築する必要がある。相談支援者として今後活躍を願いたい。演題の知っておきたい介護保険・介護保険利用までの経緯説明後、質問の中で「サービスマン希望が異なる時」の調整については、介護支援専門員の調整力が問われることであり、今後日々研鑽努力で、本人・家族に対して在宅生活の要となるサービスマン提供が必要であると感じました。演題の保険外サービスマンの取り組みについて末期の方への受け、本人・家族に対する事例支援する姿は人としての尊厳維持に不可欠であり、改めて訪問介護の神髄をみることで



（1面からの続き）
健診センター（セッションI）

「巡回健診のご紹介」
各部門の経済的側面からみた位置・出張健診の流れについての発表であった。一般の職員には普段知ることのできない内容であり、他部署のことを理解する良い機会になったと思う。

事務局（セッションI）

「外来患者の推移と分析」
月別外来患者数について、今後の解析が重要ではないかと感じた。

セッションIV座長

看護部長 岡内 文字

「NST発足からの活動報告」
昨年引き続きの研究発表だったと思う。（一人一人に合った補助食を使用し、栄養状態の改善をしている等。）
病棟では重篤な疾患で食欲がなかったり、嚥下に問題があったり、また認知症のため拒食で栄養がとれず、それと同時にADLも低下し、ケアに苦慮している。

こういう状態の患者にとつてはNST介入は患者や看護スタッフにとっても、大切なサポートチームになってきており、無くてはならない存在です。

医師、栄養、リハビリ、看護、ここに介護が加わることを、今後の発展のためにも期待します。

「第一期接遇向上委員会活動

記録」事務局
平成二二年六月、接遇力ア

第47回「歌を楽しむ会」のお知らせ
（入院患者様、ご家族様）

あきる台病院では、入院患者様とご家族、職員とが歌を一緒に楽しむレクリエーション会を毎月第3水曜日に行っております。毎回多数の患者様、ご家族様のご参加を頂き、楽しい会を催すことができいております。

平成24年10月17日(水) 3:00～4:00
1病棟デイルーム(合唱、リズム体操など)



ツブと、他部署との交流や連携を図ることを目的にスタートしました。活動内容の中心はマニュアルではなく、行動指針の作成におきました。このことにより接遇への関心が高まり、挨拶をきちんとしよう、それにはどういった方法がいいか等、更なる具体的な活動が広がりました。現在CS委員会活動として第二期へと引き継がれています。

※全体を通して、あきる台病院の患者様、ご家族様への利益となるように、臨床から安全管理、接遇向上や事務に至るまで網羅された充実した内容となった。院長 伊藤 正秀

支える家族の杖になりたい

先日父の三三回目の命日に母を訪ねました。数年前から認知症が現れ始めていきましたが、とうとう息子の私が判らなくなりました。母を失ったと感じました。生きてはいるけれど、この先母は私を知らないお客さんとして見るようになるわけです。母はあきる台病院を利用してくださっている患者の皆様と同世代です。私、私、そのご家族と同世代と同じことになり、多分私と同じような思いをされている方も多いと思います。

私の父は還暦前に難病で他界しました。まだ福祉を学ぶ前で制度も知らず、何にも出来ませんでした。病気が、支えていく家族の苦労は経済問題という現実的なもので含めてやはり大変なものです。私自身もインスリン依存型糖尿病で生涯インスリン



医療・福祉相談室 服部 玄三

介護保険の相談は

□ お問い合わせ □
TEL: 042-550-6101



あきる台病院 ケア・サービス

訪問看護・訪問介護・居宅療養管理指導
居宅介護支援・通所リハビリ・訪問リハビリ

確かな技術
快 適 性
安 心



あきる台病院 健診センター

皆様の健康を、心・身・社会の観点から多角的に
チェック・確認し、適切なサービスで支援します

□ お問い合わせ・ご予約はこちらまで □
TEL: 042-559-5449/2943 (直通)